

柴北川プロジェクト通信 20号

平成23年11月12日(土)

1. 稲刈りに続いて、「長谷でさくらソバを刈ろうカイ！」に

10/22の稲刈りから3週間。その興奮・感激の余韻がさめやらぬ11/12に、またも柴北川への“お助け隊”(？本人達だけの思いこみか)を編成し、長谷に乗り込みました。

今回は、7月末に播種した「高嶺ルビー」こと「さくらソバ」の刈り取り。稲刈りの際には多数の参加者で意外と楽に作業が済み、“今回もきっと楽しいぞ”と軽く考えたオヤジ三人(木寺、濱田、波木)に、“農作業であればどこでも駆けつけます”と、フットワークも身のこなしも軽い木寺夫人を加えた総勢4名が駆けつけました。

2. きれいなソバに囲まれての作業は・・・

今回は当会からの参加人数が少ないことから、各自のスケジュールで参加しようと、10時に現地合流しました。

長谷トンネルを抜け、神宿橋を渡ってすぐに右折して、「柴北川を愛する会」のソバ班長若杉さんの畑へ駆けつけてみると、既に「愛する会」のメンバー8名が刈り入れの真最中。見ると皆さん、腰をかがめて鎌をさくさくと振りながらの手刈りで、「ん！我が腰は、大丈夫か？」(筆者は慢性の腰痛持ち)と一抹の不安を感じながら、広々とした2反(約20アール)の畑のまだ刈り入れされていないエリアに突入しました。



広々とした2反の畑

赤いソバ株が、枯れかかったピンクの花を残しながら先端に黒いソバの実をつけて、ぱっさりと横倒れ状態。その株の根元あたりを束ねて、数十本の株を一気に刈りこむも、横倒れしたとなりの株が邪魔をしたりしてなかなかすっきりとは刈り取れず、悪戦苦闘でした。

育ての親の若杉さんの弁では、種蒔き時に種と種の間隔を広く取り過ぎ、また成長段階で肥料を施したことで成長しすぎ、株がしゃきっと立たなくなってしまうことが、今年の反省材料とのこと。

この反省を基に来年はしゃっとした状態で刈りいれられるとしても、今年とはとにかくこの状態の株を刈りいれなければと、参加者全員黙々と作業を進め、何とか1時間半で2反全部の刈り入れが終了しました。



中腰での作業は結構大変

途中、腰を伸ばしながら作業したので、腰痛には見舞われなかったものの、すじ雲の合間から秋の日差しが照りつけ、結構多くの汗をかきました。

聞けば、刈り取ったソバはしばらくそのまま畑で2~3日乾燥させ、そののち実を収穫するとのこと。今回採った実はすべて来年の植え付け用に取っておくらしく、残念ながら、今年は挽いて食すことはしないそうです。

来年は、さらに植え付け面積を広げる(その時の刈り入れは、できれば機械か何かでお願いします。)とのことですから、来年こそ「さくらソバ」の味を確かめられる、と思います。(もう少し、我慢。)

3. 柴北川レディースのご馳走を囲んで、今後の相談を。

■ 新米おにぎりと猪汁が待っていました

一汗かいた皆さんは、一旦、黒松生活改善センターに移動しました。先月の収穫祭に続いて、柴北川レディースの皆さんが、腕に縋をかけて地元産の材料を料理した昼食が待ち構えていました。

3月の大震災後すぐに東北に入り、永らく震災被害の復旧ボランティアに携わられていた「河童小屋」の三浦隊長（三浦忍さん）が、娘さんと駆けつけられましたので、その間の苦労をねぎらいながら、新米のおにぎり、猪（シシ）汁、漬物などをいただきました。長谷の三浦君重さんの農園のカボス汁をかけながらの食事は、箸の進むこと進むこと、長谷の秋味をたっぷり堪能しました。デザートの手づくりアップルケーキも、ナイスティストでした。



柴北川レディース食堂で



柴北川レディースの皆さん

■ そして、これからの活動計画を協議

昼食後に、今後の長谷での活動計画について協議をしました。当会の「里山保全技術開発チーム」のリーダー濱田さんから、「竹の活用例」と題した資料が配布され、竹パウダーの製造・活用、竹炭の製造・活用さらに竹の駆逐方法に関する情報提供がありました。

参加者全員が大きな関心を持って濱田さんの話を聞きこむ中、東北の被災地で実際に木炭製造を進めて来られた三浦隊長から、大きな鋼製の器を用いた簡易な炭づくりの方法や、その炭を使用する際の用途にあった寸法の竹加工の必要性などが紹介され、今後の竹活用の試作に向けた意見が活発に交わされました。



東北帰りの三浦隊長（真中）

この話し合いの結果、当面の活動予定として以下が決定されました。

- 12/3・4 に、竹活用の試行や竹林除伐の活動を実施すること
- 12/3 の夜に、愛する会と共助研の合同の忘年会を開催すること。
- 今回は、愛する会や地元の方々とはじっくりと話し合うために、センターで宿泊すること。

■ 午後からも残りの刈り入れが・・・

会議後、ソバ班長の若杉さんが盛んに時計を気にされている様子。どうやら、残りの2反のソバ刈り入れも、当日中に済ませてしまいたいとのこと。

そんな展開とはつゆ知らず、汗でぬれた上着をさっさと着替えてしまっていた当会会員（筆者のこと）もあり、日頃の運動不足等を理由に、午後からの作業は



熱心に竹活用を協議

抜けさせていただきました。(若杉班長、本当に申し訳ありませんでした。)

帰り際には、三浦農園からカボス一箱の提供があり、ヨソ者(我々と三浦隊長)で振り分けました
が一人ずつでも相当の量のカボスを頂戴しました。

また、他の会員の方々が出発された後も居残って渡辺さんと話をしていた筆者に、レディースの皆
さんから当日の料理の材料が余ったからと大量の野菜の提供があり、「帰り道で、野菜の行商ができま
すね」などと冗談を飛ばしながら、満面の笑みで帰途についたのでした。(木寺さん、濱田さん。一人
占めしてしまい申し訳ありませんでした。)

後日伺ったところでは、午後の残り 2 反のそば刈り入れは、午前中に比べるとソバの株がしゃきっ
としており、刈りやすかったとのこと。それにしても、脱走兵(!)が出て人数が減っての刈り
入れ作業は大変だったと思います。

「愛する会」の皆さんの、日頃から鍛えられた体力には脱帽です。(翌日の日曜日、体の節々が固ま
った筆者は、一日自宅でまんじりとして動けず、トホホホ状態でした。)

(文責：波木)



7/30 のソバの播種するとき



刈り入れを終えた畑をバックに集合写真(紅一点は、木寺さんの奥様)